

会 議 要 旨

会 議 名	令和4年度 第2回館山市行財政改革委員会
開 催 日	令和4年7月28日(木) 10:00~12:00
開 催 場 所	館山市役所 本館2階会議室(委員:複数名リモート参加)
出 席 者	◆ 館山市行財政改革委員会委員 8名 ◆ 館山市(事務局) 副市長・総務部長・行革財政課(課長以下4名)
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
傍 聴 者	2名
会議概要・結果等	<p>○委嘱状交付(簡略化)・副市長挨拶</p> <p>○委員長・副委員長選出</p> <ul style="list-style-type: none">・立候補者がなかったため、事務局より、委員長に伊藤委員を提案⇒了承・委員長より、副委員長に児玉委員を提案⇒了承 <p>○情報提供・協議事項</p> <p>(1) 第3次館山市行財政改革方針の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none">・令和3年度の行財政改革の取組みについて、事務局より説明。 <p>(2) 第4次行財政改革方針の目標設定について</p> <ul style="list-style-type: none">・基本目標において、長期財政推計による令和9年度赤字収支を回避するための数値目標を設定した案①及び数値目標を設定しない案②を示し、事務局より説明。 <p>案①—1 「単年度収支±0を目標設定した内容」</p> <p>案①—2 「行革効果額として3億円/年を目標設定した内容」</p> <p>案② 「各課で行う取組みを示しつつ、効果・目標値に対して、毎年各課の進捗・実績を調査し、目標に対しての達成率の検証を行う内容」</p> <p>(●:委員意見 ⇒:事務局回答)</p> <p>【(1)に関する主な委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none">●取組みにおいて、令和元年度台風と新型コロナウイルス感染症の影響があり、なかなか結果がでなかったのは、仕方がなかったと思う。一方、決定的に大きな効果がでたのは、「市税の徴収率向上」、「建築施設課に建設関係業務をまとめた結果による必要な施設の新規整備に係るコスト抑制」という2点。

●特に歳出削減、福祉関係や維持管理費用といったコストはなかなか削れない。歳出削減は非常に難しいと感じている。

●市税の徴収率について、令和3年度の実績が98.7%となっているのは、過年度分を含めた徴収率か。

⇒現年分のみ。

令和3年度の市税の徴収率になるが、滞納繰越分を含めた徴収率は95.08%。国保税の徴収率は、現年分になるが93.2%。県内市町村の真ん中ぐらいの数字になっている。

●市税徴収率の全国平均は、99%程度あると思うが、館山市の98.7%は少なくとも改善が見られている。徴収率は上がっているが、市税収入は減っている。どのように考えているか。

⇒市税収入が減っている要因の一つとして、固定資産税にコロナの減税措置があったため下がったと考えている。一方、市民税は若干、上がっている。

●人件費について、会計年度任用職員制度の導入もあり、目標に届かなかったことについて、考え方によるが人件費は本来かかるものであり、歳出削減を目的とする内容ではなかったのでは。

現実には、事務事業の見直しや歳入確保の取組みが効果を出したと思っている。

●第3次館山市行財政改革方針では人件費について、どういった内容になっているのか。

⇒組織体制の見直しについては記載している。

職員数を何名にするといった内容は記載していない。なお、ICT等の活用による業務のスリム化において、効果額を出している。

●他自治体も含めて、会計年度任用職員制度導入により人件費は上がっている。臨時職員は物件費だったが、会計年度任用職員制度導入により人件費となった。人件費として、約1億円が上がっている理由は、ボーナス等の要因があり増えていると想定されるが、会計年度任用職員について、事務局としての捉え方があれば、教えてほしい。

⇒もともと館山市の場合、非常勤職員が千葉県内でも多い自治体であり、会計年度任用職員制度の導入前、他市よりも大きな負担増が想定されたため、アウトソーシングの徹底を行革方針に記載した。

●会計年度任用職員数は、もともとの臨時職員数からは、減っているのか。増えているのか。

⇒増えている。

●当初の計画からすると、アウトソーシングの徹底が必ずしも、計画どおりに進まなかったと聞こえるが、市はどう考えているか。

⇒第3次の計画を策定したとき、職員数を年々、削減した結果、平成28

年でいうと406人だった。

業務量が増えながら、一方で職員を減らしてきた流れに限界を感じることもあり、また、職員数を減らしていることにも、会計年度任用職員の人件費増加の要因がある。その中で、アウトソーシングできるものは積極的にだしていこう、という考えが近年の流れになっている。

【(2) に関する主な委員意見】

- 令和9年度までに赤字収支を回避して、さらに基金を積みたいというところだが、実際どのようにするのが見えない。率直な感想としては、「詰んでいる」と感じる。何らかの数値目標は、あった方がよいと思う。
- 赤字収支を回避するために、できることからこつこつ行い、その結果が実を結ばばいい。その点は、すごく共感できるが、数字目標があった方がよいと思う。
- 数値目標をどうするかというと、わからないが、最終的に数字を上げるにしても1個1個の項目を綿密にやりましょう。もしかしたら、館山市役所の体質や今までの仕事の仕方から考えると、それが非常に良い方向に行くのかなと思う。
- 支出は少なくしていくという試みをやっていただくよりは他はないと思う。
- 年次目標は掲げないと、モチベーションにも繋がらないし、目に見える形では進まないかなと思う一方で、行革を推進するうえでは、数値目標という形ではなく、行革の推進に係る取組みを評価されていだろうということはある。
- 数値目標がなければ、目標までの具体的な内容が見えてこないため、ある程度は作るべきと思う。
- 数値目標について、ポイントが2つあると思う。令和9年度における数値目標と効果額を踏まえた年次目標。それに対する事務局の考えは。
⇒令和9年度に最終的に赤字収支の回避。そして、財政調整基金を残していく、という考えがある。
- 目標に進むための道筋は、状況によって変わるところがあるので、効果額の年次目標に縛られすぎない方がよいのかなと思う。
- 令和10年度は5.6億円、令和11年度は6.1億円、令和12年度は5.5億円という財政調整基金がないのに赤字収支という状態。
この非常にありえない状況を回避できれば、基金がなくてもしょうがないと思うが、赤字収支の回避は目指すのか。
⇒目指す。なお、財政調整基金を取り崩すのは、次の手段。

取り崩す前に歳入を増やす、歳出を減らす、といった内容で収支のバランスをとっていかうと考えている。

また、そのような流れになるように、個々の取り組みを第3次行革方針よりも細かく設定して、それを毎年さらにきっちり検証していくという考え。

- 今の事務局案は令和9年度時点で赤字収支を回避して、財政調整基金を積んでおくという目標になっている。

さらに、その先の令和10年度以降について、細かい数値目標は設定しづらいと思うが、「令和10年度以降も赤字収支にならないような財政運営を行う」という内容を加えるのはどうか。

- 良いと思う。

- 目標設定について、決めたいと思う。

この第4次の行革方針の目標として、令和9年度に時点をおき、令和9年度時点で赤字収支の回避。そして、財政調整基金はしっかりと残す。かつ令和10年度以降も、赤字収支にならない財政運営を行う。

この“かつ”をいれることで、令和5年度から令和9年度の単年度に係る財政運営においても、財政調整基金を残していくことも縛られると思う。

これをまずは目標にしたい。

⇒了解した。

○その他

(1) 事業仕分けについて

- ・令和5年度に実施予定とする。

(2) 次回の会議日程について

- ・次回の会議を9月下旬または10月上旬に実施予定。